

平成22年 3 月30日

第6回「上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議」

の議事概要について

標記の会議が、以下のとおり開催されましたのでお知らせいたします。

1. 開催日時 平成22年3月16日（火） 10：00～12：00
2. 開催場所 上尾市文化センター
3. 議事概要

1）議事及び事業者説明要旨

①第5回会議の議事概要の説明

②特定希少植物の生活史解明と野外実験の実施についての経過報告

- ・ 発芽実験の結果と発芽後の生育状況について説明。
- ・ 自生地での調査・野外実験の経過について説明。
- ・ 江川周辺の水環境調査について説明。

③江川周辺地域における上尾道路計画の進め方について

- ・ 上尾道路計画の進め方について、現状と課題を整理し、環境保全の観点から作成する複数の計画案に対して、社会情勢を踏まえた道路事業における評価を実施し、実施案を選定すること。江川河川改修計画案と一体となった上尾道路計画を策定することを説明。

④平成22年度の調査スケジュールについて

2) 意見・助言の概要

項目	意見・助言等	事業者の回答
第 5 回議事概要について	・発言した内容と書いてあることが少し違うようなので、確認できるように早目に議事録を出してください。	・議事概要についても速やかに報告させていただきます。
	・平成 16 年から現在までに 5 箇所に種子や苗が分散し、各箇所でどうなっているのかわからない状況にある。また、インターネットでは 1 株 3000 円で売買されている状況もある。希少野生生物保護条例について、県としての厳しい姿勢を示してほしい。各所に散らばった希少植物については、科学者の集まりである国際環境科学センターに一元化してほしい。	・分散した 5 箇所については確認し、どのようなデータを取りまとめているか確認し、実証実験と重複がないように整理します。
発芽実験について	・資料の結果を読むと秋だけに発芽するようにみえます。秋に発芽するけれども、春に発芽しないわけではないですね。 ・結果は厳密に示したほうがよいと思います。	・休眠している種子が春にまた発芽するのではないかという部分については、まだ確証がとれていないため、屋外・室内実験の結果からの想定とさせていただきます。
	・個体の寿命については、調べておいたほうがよいので、以前から栽培している県のほうに聞けば参考になると思います。	
	・野外の実生が 1 ヶ月たってもこれだけしか成長しないでしたら、水分の多い裸地では、他の植物が繁茂してしまい、こんな小さな実生はたぶん全滅してしまいます。自生地が個体数が減っているのも、藪みたいに茂ってしまい、日照条件が悪くなり減ってしまうのもやむを得ないことだと思います。	

自生地での 野外実験に ついて	・草刈の時期を 8, 10, 12 月と決めていますけど、草刈の設定の月が昔のやり方と違う。 ・昔、ヨシを刈るのは 1 月か 2 月で年 1 回、ヨシを刈った後は、ヨシの葉が厚く積もっていて、その後 2 月か 3 月に堆肥にするためにかくのが習慣だった。	・来年度からやり方を考えることにします。 (亀山議長) ・今ロゼットの状態で冬を越すところを見ていますので、状態の変化を見ていくと、ある程度わかると思えます。 (亀山議長)
	・自生地に生育する株は、基本的にロゼットからのものだけで、実生は全部死んでしまっているわけですから、現地で発芽して、実生からどうやって成長させるかが必要になる。将来うまく増やしていく方法や野外で増やす方法を早く検討する必要がある。 ・できるだけ自然にうまく定着できるようなことを野外調査や実験の中に織り込んでいくことが大事な課題である。	
上尾道路計画の 進め方について	・今月末に圏央道、上尾道路が一部供用開始になりますが、地元住民の状況を理解してほしい。できるだけ早く環境対策の問題を解決し、道路計画を進めてほしい。 ・一番心配されているのは、抜け道利用が増えるのではといったことです。 ・国道が暫定供用した場合の未開通区間における交通問題というのは、地元ではどう議論されているのか。警察協議とか、市の交通計画、都市計画でどういう議論されていますか。 ・交通管理者の問題だから、警察ともよく相談してやっていただきたい。	・開通にあたっては、その暫定的な供用に伴う周辺交通の状況について、交通管理者と協議をしますが、交通の流れについて細かな指摘があるわけではございません。地区単位で要望のあった箇所に対しては、交通の流動だとか、案内看板を示して通過交通の対策をするといった方針を説明させていただいております。

	・道路事業による評価、複数の計画案の選定とあるが、実際にタイムスケジュール的にどうなるのか見えない。 ・いろいろな外圧によって、さっさとやってしまえという話になるのが一番恐れられる。環境対策と同時並行でこの検討会が生きるように進めてほしい。 ・道路区域内だけで、他には代償地を作らなくていいのか。発芽させた苗を野外に植えることは緊急性を有するし、最初の議論から後退しないように努力していく必要がある。 ・社会情勢が変わっているのはわかっているわけですから、それに流されることなく、環境のための委員会であることを忘れないように進めていただきたい。	・具体的な計画案については、これまで提案してきた方向性を図面化して、提案していくことを考えています。ただし、今の段階では、来年のいつこの図面を提示できるかはお約束できない状況です。 ・具体的なスケジュールについては周辺の交通環境の変化を踏まえながら、少しでも早く進めていくこと視野に入れ、来年度から具体的な計画案を提示していきたいと考えています。 ・河川改修計画のほうでも 3 月末に計画スケジュールが提示されると聞いております。我々も新年度の予算の枠組みが決まった中で方向性を打ち出していきたいと思っております。
	・いろいろな課題があるが、なるべく早目に 7 回目を開いていただき、全体像が見えるようにしていただきたいと思います。	第 7 回会議までに、今日お約束した事項や、こちらの不手際で遅れている作業を進め、会議の日程については、別途、年度が変わりましたら調整させていただきます。